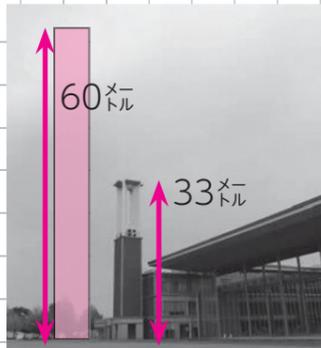


解説

7世紀後半に作られた石川県で一番古いお寺の跡。



末松廃寺跡復元模型
(ふるさと歴史館で見ることができます)



市役所の一番高い部分がおよそ33メートル。60メートルの塔となるとその2倍近くの高さ

末松廃寺跡は、7世紀後半（白鳳時代）の巨大なお寺の跡で、金堂や塔などが建てられていました。高層建築物である塔は発掘された柱の大きさから、なんと高さ約60メートルの七重塔であると考えられています。このお寺を建てた人には諸説あり、当時北加賀地域を治めていた豪族「道君（みちのきみ）」や末松廃寺の瓦が作られた能美市湯屋（ゆのや）を含む南加賀地域にいた豪族「財部造」たちから「ののみやつこ」という人が関わっていたという説もあります。

当時のお寺は、地域の有力者である豪族が仏教に対する信仰を抱くとともに、地域に住む人に対して権威を示すために建てられたと推測されています。

地元に残る塔の心礎^{しんそ}についての言い伝え

塔の中心の柱を立てる土台となる石を心礎（しんそ）といいます。（推定）七重塔を支えた柱を立てたということで、とても大きな石が利用されていました。この石は現在公園内の塔が建っていた場所に置かれています。

この石は「唐戸石（からといし）」と呼ばれ、末松の地にあったことが江戸時代の史料に記されています。また、末松には塔心礎の石にまつわる「石のうえのごぜん」という話が伝えられています。ある日、田んぼからこの大きな石が現れ、村中の人々が神社へ運びこんだところ不思議なことが起こったという内容です。実際に、明治21年には末松の大兄八幡神社に塔心礎が運びこまれ、その形状を活用して手水鉢に使用するなど大切にされていました。



公園内に置かれている塔心礎



瓦塔の全体
(能登国分寺出土瓦塔復元模型/写真提供:七尾市教育委員会)

赤塗りの部分を発見



「女子像が線刻された土製品」

全国初の大発見！「天女が書かれた瓦塔」が発掘される！

「瓦塔」とは、お寺の塔を再現したミニチュアの焼き物です。その瓦塔の一部と考えられる土製品が平成30年の発掘調査で発見されました。この土製品には女子像が刻まれており、絵を描いたものが発見されたのは全国でも初めてで大変珍しいものです。描かれた女子像は仏教の弥勒菩薩に仕える天女であるとの見解があり、当時の仏教の広がりなどを知る上で貴重な発見といえます。

参考資料

- ・図説 野々市町の歴史 野々市町 平成17年
- ・ふるさと歴史シンポジウム いまよみがえる末松廃寺 野々市町・野々市町教育委員会 平成21年
- ・郷土の民話・伝説集 野々市町教育委員会 昭和61年
- ・平成27年度埋蔵文化財展「発掘された謎」 野々市市

11月1日 金曜日 日直のっティ

【特集】 \ そうだったんだ!

野々市の「これって何なん？」

見たこと聞いたことはあるけどよくわからない、知ってるようで知らないそんな野々市にまつわる疑問の中からぜひ知って欲しい3つを大解説。
野々市をもっと知って好きになる！

ぎもん 1

公園、広場、遺跡？ここはいったい何なん？ 末松廃寺跡ってどんなところ？





野々市じょんから節で 歌い継がれる富樫氏の歴史

夏の一大イベントといえば野々市じょんからまつり。このまつりで踊られる野々市じょんから節では、富樫一族の歴史が歌われています。富樫氏の名前を耳にする一番の機会はこのじょんから節かもしれませんね。

野々市じょんから節を
市公式 YOUTUBE で公開中！



野々市じょんから節

- 一 未熟ながらも拍子をとりにて 唄いするは富樫の略史
- 二 声はもとより文句も拙い 拙い処を 御用捨あれば
- 三 踊りましようぞ夜明るまでも 今を去ること千年以前
- 四 時の帝は一条天皇 雪に埋れて開けぬ越路
- 五 加賀の司に富樫よ行くと 勅諭かしこみ都を後に
- 六 下り来りて野々市町の 地理を選びて館を築き
- 七 神社仏閣造営いたし 民を愛して仁政布けば
- 八 名僧智識は四方より集い 是等智識に道をは聞きて
- 九 下は和らぎ稼しよくを 励み 上を敬い富樫を慕い
- 十 代々の司に奏上いたし 勅許ありたる良官なれば
- 十一 一の谷やら鶴越と 屋嶋海戦大功樹て
- 十二 兄を名誉の將軍職に 授け上たる義経公が
- 十三 落ちて来りて安宅の関所 家来弁慶読み上げます
- 十四 音に名高き 勸進帳に 同情いたして 涙で落す
- 十五 實にもすぐれし名將智主と 後の世までも歌舞音曲に
- 十六 残る徳こそ白峰と高く 麓流るゝ 手取の水と
- 十七 共に幾千代名は芳ばしく 唄いするは富樫の略史

もっと詳しく知りたい人におすすめの一冊



「八曜の剣」
宮前洋介作・画 / 富樫氏頌徳会発行

富樫氏についての研究や歴史をドラマ性のある物語にして紹介する歴史漫画です。

販売場所

- (1) 野々市市役所 (2) ふるさと歴史館
- (3) 郷土資料館 (4) 明文堂 TSUTAYA 金沢野々市店

銅像が建てられた理由

中世の時代に野々市を加賀国の政治・経済・文化の中心として繁栄させた富樫氏。その歴史や功績を後世に伝えるため昭和63年に建てられたのがこの銅像です。この家国の銅像が向いている方向は富樫氏と一向一揆の戦いの舞台になった高尾城の方だといううわさも…。

参考資料

- ・図説 野々市町の歴史 野々市町 平成17年
- ・ののいち歴史探訪 野々市市教育委員会 平成14年(平成23年改訂)
- ・八曜の剣 加賀・富樫氏の物語 富樫氏頌徳会 平成28年



ぎもん 2

この人いったい誰なん？ 文化会館フォルテ前の銅像



Who are you?



解説

加賀国を治めた 富樫一族の始祖、富樫家

富樫氏は平安時代の後期から戦国時代の五百年近くの間、加賀の地を治めた武士の一族です。フォルテ前に銅像が置かれている富樫家国は「富樫介(とがしのすけ)」を名乗り、国の行政の実務を担い、このことが富樫氏の始まりといわれ、1063年には野々市に館を構えたとも伝えられています。富樫一族は、地域の開発を積極的に行いながら勢力を拡大し、鎌倉時代には加賀国の荘園などを管理支配する地頭御家人となりました。有名な読み物「義経記(ぎけいき)」や歌舞伎「勸進帳」にも富樫一族が登場し、どちらの話でも人情豊かで思いやりの深い武士だったとされています。

鎌倉幕府に仕えていた富樫高家は、1333年に後醍醐天皇が鎌倉幕府を倒せと呼びかけた時は幕府方にいましたが、幕府に反対していた足利尊氏に従い天皇側に付きました。有力な武士として各地の戦いで手柄を挙げた高家は、足利尊氏から加賀国の守護職に任命されました。そして職務の拠点である守護所を、野々市に築いたのです。

本町の町並み

野々市の中でここだけ景色が違わんけ？



解説

かつて北国街道が通り、宿場町が置かれた場所

北国街道とは越前、加賀、越中などを繋ぐ北陸地方を縦断する主要な街道の一つです。加賀藩は、参勤交代の際にこの北陸の陸上交通の要となる北国街道を利用して五街道にあたる中山道と合流し江戸へ向かったとされています。(五街道は、東海道、中山道、甲州街道、奥州街道、日光街道の5つの街道の総称)

北国街道は、現在の押野丸木本町、稻荷、郷、三日市、徳用を通っていました。その中でも本町(当時の地名は野々市)には宿場町が置かれたため「町家」と呼ばれる街並みが造られました。この街並みにある家は、表の道に面して一列になって建っています。これは町家にはさまざまな店があり、通行人が入りやすいようにするためと言われています。

また、家の形にも特徴があります。道に面する軒が正面に見えるものを「平入り」といい、一方、屋根が三角に見えるものを「妻入り」といいます。平入りは町家、妻入りは農家でよく見られる造りです。野々市の場合、表は平入り

で、家の本体は妻入りという町家風農家が多く見られます。その理由として、野々市はもとも農業が盛んであったことから家の間取りは農家の造りでしたか、そのうちに宿場町として商業が発展してくるにつれて、表構えを町家にする家が多くなっていったからと考えられています。



郷土資料館(旧魚住家)は町家風農家



喜多家住宅は平入りの家の形

参考資料

- ・野々市町史集落編 野々市町 平成 18 年
- ・図説 野々市町の歴史 野々市町 平成 17 年
- ・ののいち歴史探訪 野々市市教育委員会 平成 14 年(平成 23 年改訂)